



スクミリンゴガイ撃退法を確立！

－地域に合った防除体系で被害低減－

開発の背景・ニーズ

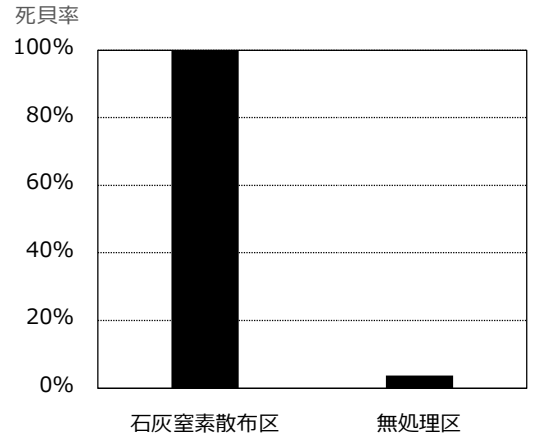
スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）は、移植水稻において定植直後の水稻を食害します。本県におけるスクミリンゴガイの防除対策は、メタアルデヒド粒剤の散布等、移植時期の農薬散布が中心でした。しかし、近年スクミリンゴガイの被害が深刻となりつつあるため、新たな防除体系の確立が望まれていました。そこで、スクミリンゴガイの被害が問題となっている県内5地域において、スクミリンゴガイの防除対策の実証試験を行いました。

成果の内容

秋冬期の防除対策として、秋期の石灰窒素散布や、低速耕うんの殺貝効果を確認することができました。とりわけ、秋期に石灰窒素を散布することで、比較的高い殺貝効果を確認できました。また、石灰窒素を秋期に散布できない場合でも春期に石灰窒素を散布することでスクミリンゴガイによる被害の軽減を確認することができました（※）。これら複数の防除対策を組み合わせることでスクミリンゴガイによる被害を効果的に低減できることが明らかになりました。以上の結果を踏まえ、地域別に体系づけました。（※農薬登録上、石灰窒素は年1回しか使用できないため、秋期、春期どちらか一方でのみ散布できる）



スクミリンゴガイ（左上）と被害に遭った水田



秋期石灰窒素散布による殺貝効果（西尾市）

普及が見込まれるスクミリンゴガイ防除体系

試験実施地域	栽培体系	秋冬期防除（10月～2月）	春期防除（4月～6月）
尾張① （小牧市）	普通期栽培	厳冬期（12月～2月）の耕うん（最低1回）	メタアルデヒド粒剤散布、水路からの侵入防止ネット設置等
尾張② （大口町）	普通期栽培	厳冬期（12月～2月）の耕うん（最低1回）	石灰窒素散布
海部 （弥富市）	早期栽培	石灰窒素散布	（多発生時）メタアルデヒド粒剤散布
西三河 （西尾市）	早期栽培	石灰窒素散布	（多発生時）メタアルデヒド粒剤散布
東三河 （豊川市）	早期栽培 （特別栽培米）	厳冬期（12月～2月）の低速耕うん（畔際、水尻付近のみ） （2回のうち最低1回は低速耕うんを実施）	メタアルデヒド粒剤散布＋浅水管理

愛知県農業への貢献

地域に即したスクミリンゴガイの防除体系が確立されたことで、スクミリンゴガイによる被害の軽減が見込まれます。試験結果の詳細は農林水産省Webサイト及びあいち病害虫情報で公開しています。

【本事業は、農林水産省「病害虫の効率的防除体制の再編委託事業」で実施しました。】